

平成22年度第2回 地域ぐるみの教育推進委員会概要

日 時 平成23年1月24日（月）18：00～19：15

場 所 601会議室（市本庁舎6階）

1 開 会

進行 曾我委員長

2 議題

(1) 全国生涯学習フォーラム「地域コミュニティ」参加報告について

資料 地域コミュニティフォーラム

○事務局から説明

○質疑、意見

- ・説明の中の「島根県松江市立第一中学校」の活動内容として、公民館との連携が記述されているが、記述の「地域の人・もの・ことについての情報収集」についてもう少し詳しく説明いただけるか。
- ・（事務局から）特に具体的な説明はなかったが、公民館活動をする中で得た人材や、地域で支援できることについての情報収集だと思われる。
- ・「島根県松江市立第一中学校」と「高知県香南市立夜須中学校」では学習ボランティア活動を放課後に実施しているということであるが、どのような形で部活動と並行して行っているのか。
- ・（事務局から）希望参加であるので、部活動がある生徒は部活動に行っている。ただ、地域性もあると思うが、活動を続ける中で参加生徒が増えているようである。特に3年生は部活引退後に学習活動に参加する生徒がいる。
- ・「高知県香南市立夜須中学校」では中学校問題が顕在化したことがきっかけで、事業をスタートしたようであり、今後の課題として、学校の課題をどう解決するのかという記述があるが、事業を推進した中で「地域に学校の課題を言える風土づくり」は進んで来たのか。
- ・（事務局から）説明を聞いていた中では非常に地域と一体化している印象を受けた。校長が学校の問題を地域に示して、地域と協力して良い学校にして行きたいという話もしていた。生徒数は少ないが、地域の方が学校に関わる中で、子どもたちとの関わりもできて来ており、子どもたちも少しずつ落ち着いて来ているとの話もあったので、良い形になっていると思う。
- ・学校に問題が起きて中々言わないだろうし、地域の方も関わっていかないとと思うので、地域と協力して皆で学校を良くしようという風土づくりにこの事業が関わったとなると素晴らしいと思った。
- ・（事務局から）分からない点も多いが、校長が生徒・保護者の学校に対す

る満足度や元気度をデータに取っており、それを本事業の実行委員会に示している。そのように地域と学校が協力して行って来たことの成果を数値で示すことは、今後の目標にもなり、意義があることだと思う。

- ・「島根県松江市立第一中学校」の活動内容で、学校支援地域コーディネーターの配置とあるが、この具体的な内容はどのようなものか。
- ・(事務局から) 学校と地域のボランティア活動を繋ぐコーディネーターを配置したということで、小田原市で行っているものと同じ内容である。
- ・パネルディスカッションのパネリストで岸裕司氏(千葉県習志野市秋津コミュニティ顧問)がいるが、先日、西湘地区の教育委員33名を連れて秋津コミュニティを訪ね、お話を聞いて来たところである。ここではどのような発言をされていたか。
- ・(事務局から) 秋津コミュニティの良いところは学校を支援していくという主点がきちんとあることであり、地域と学校との連携もきちんと取れているということだと思う。資料にも載せてあるが、岸氏は地域に戻って来る若者を増やしたいということをやっていた。
- ・3校の実例とパネルディスカッションを聞いて、今後、小田原でスクールボランティア活動をより充実させるために、特に参考になった点はあるか。
- ・(事務局から) まず感じたのは、小田原市でも良い意味で同じことをしているということであった。この3年間で活動した成果を大事にしていきたいということ、また、幼保小中の繋がりや地域ぐるみの活動を今後も大事にしていければと思う。また、学校支援地域本部事業は、大人同士の信頼関係や協力関係を結びつけられる事業であると感じている。

(2) 来年度の学校支援地域本部事業の取り組み予定について

参考資料 平成23年度学校支援地域本部事業について

○事務局から説明

○質疑、意見

- ・幼稚園にも来年度からコーディネーターが配置されるということで、とてもありがたく感じている。地域の方の教育力をより一層生かすことができるということでとても良いと思う。
- ・地域教育協議会や中学校区部会の関係性などは理解できた。付随して、例えば城山中学校区では学区が複雑に入り組んでおり、芦子小学校や新玉小学校の一部の児童も城山中学校に進学し、また、越境通学して来る生徒もいるので、一貫した企画ができるのかが不明である。そこで、他の中学校区とは違ったマニュアルなどを作らなければならないのかなと思う。また、地域政策課が進めている地域コミュニティ事業との兼ね合いもお聞きしたい。
- ・(事務局から) 学校支援地域本部事業はあくまでも学校を核として、学校

のニーズに応じてボランティアの方に来ていただき、学校を知ってもらって地域と交流することが主なので、地域コミュニティ事業とは趣が少し違うかなと思うが、地域との連携という部分では是非、情報交換等をさせていただきたいと考えている。

- 自治会総連合でも25の連合自治会で、地域政策課と協力して地域コミュニティの事業を進めているところである。その中には福祉や教育など様々な分野があり、各種団体が一同に介した形で整理統合して、地域の課題に取り組んでいこうというスタンスでスタートしている。ただ、スクールコミュニティ事業にしても学校支援地域本部事業にしても地域との関連があるが、行政区と学区とが入り乱れている地域もあるので、受け止める側の地域としてもそれらを整理した形で取り組みたい。行政側でもそのような点で相互の連絡調整をしているのかをお尋ねしたい。
- (事務局から) それはとても大事なことだと思っているので、情報共有や連携を今後もしていきたいと思っている。学校支援地域本部事業も中学校区を単位としているが、各小中学校それぞれにコーディネーターが配置されており、様々な中学校区の研修会の中で情報交換をしているところである。学区が重なっている中学校区ではそのような研修会などをなるべく一緒に行い、交流や共有し合える形で現在も行っており、少しずつ定着してきているところである。今頂いた貴重なご意見などを参考に、行政でも連携を図り、整理し、見える形で示せるようにしたいと思う。
- 自分が学校現場にいた時に感じたことだが、ボランティアが各学校に色々な形で支援していただいた成果が非常に大きいと思った。特に子どもたちにとって非常にメリットがあるのと同時に、学校職員にとってもボランティアの方が支援していただける中で、子どもと関わる時間が増えるなど、業務の軽減が図られているのか。逆に業務が増えてしまっているのか。
- (城南中学校区代表) 学習ボランティアについて、正直に言うと事業1年目はボランティアの方と教師それぞれでねらうところが違う部分もあり、色々大変であったが、2、3年目と継続していくと、相互のニーズが一致して非常にスムーズに活動ができるようになっていく。
- (白山中学校区代表) 最初は打ち合わせの増加だったり、ボランティアの方と教員のやりたいことに差があったり、大変であった。学校としては、安心して学べる環境にするためや、確かな学力をつけるために支援していただくことなどが大きな目的であるが、ボランティアの方の中には自分のやりたいことをやらしてもらいたいという方がいないでもなく、それは学校にとってもあまりありがたい話ではない。それが事業を継続していく中で、コーディネーターの方にも間に入ってもらい、段々と活性化して良い方向に向かっており、学校や教員としても大変感謝している。また、地域コミュニティの中では、双方向の活動が大事だと思う。地域の方が学校に

来ていただく中で、子どもたちが徐々に地域に出て行き、さらに教員も地域に出て行くための第一歩として、ボランティアの方など地域の方が学校に入って来ていただくことが大事だと思う。それを続けていくうちに、みんなが子どもと関わっているような形ができればありがたいと思う。

- ・(城南中学校区代表) コーディネーターの方は地域の方をよくご存知で、学校のニーズを伝えると、すぐに紹介していただける。教員が地域の人材を探すのは中々難しいので大変助かっている。
- ・(鴨宮中学校区代表) 学校教育に携わっている立場で言うと、ボランティアの方の生涯学習の充実のために来ていただくのではなく、学校教育にとって効果的な活動を展開していかなければならないという部分もあるので、コーディネーターの方の力が非常に重要であると感じている。先ほども話があったが、教員のほとんどが地域の間人ではないので、地域の人材に疎い部分を補完していただけたところや、ボランティアの方のサポートの仕方などの運用の部分でも、子どもたちの教育にプラスになるように学校とボランティアの方の橋渡しをしていただくところなどが非常に大事だと思っている。この事業はスタートして数年が経っているが、実施している中で支障が出た場合に、どのようにしていくのかを考える段階に入って来たのかなと感じている。
- ・(チーフコーディネーター) チーフコーディネーターの活動としては、今まではコーディネーターだよりの発行に加えて、各小中学校の活動見学が主であったが、今年度から各中学校区での取り組みを見学している。コーディネーター同士の打ち合わせに参加することもあるが、具体的には、一緒にたよりを発行したり、学校の活動を行ったりしている。幼稚園の活動見学も今年度から行っているが、幼稚園での活動を見学することは非常に参考になり、幼稚園についてもコーディネーターの必要性を感じた。
- ・(チーフコーディネーター) スクールボランティア活動を始めた当初は、ボランティアの募集をする対象も保護者が中心であったが、各学校を訪問する中で地域の方々がたくさん協力していただいていることが分かったので、来年度、それに加えて各地域の団体の方などの協力が得られれば、とても心強く感じるし、コーディネーターも活動しやすくなると思う。
- ・(白山中学校区コーディネーター) 活動を推進するにあたって、ボランティアの方の質も問われていると思う。特に保護者に子どもの卒業後も協力していただけるような努力をしていければと思う。
- ・(城南中学校区コーディネーター) コーディネーターをして3年になるが、当初は先生が無理矢理ボランティアを依頼しているように思われ、逆に負担になっているのではないかと感じている部分があったので、先生と話し合って本当に必要なボランティアだけを依頼するようにした。その結果、例えば書道などでも支援の効果が見られるようになり、最初は負担になったが、続けることが大事だと感じた。

- ・(酒匂中学校区代表) 例えば学習ボランティアでは、ミシンや書道などの体験的な活動であれば人手があればあるほど助かるし、打ち合わせも少なく済むので、気軽に支援していただけているのかなと感じている。また、読み聞かせのグループの方は卒業生の保護者などが楽しんで参加していただけており、学校でのそのような支援活動が、その方の生涯的な社会参加の面にも良い影響を与えられているのではないかと感じている。子どもたちを取り巻く色々な環境が、色々な人の手で支えられているとも感じており、中学校区で情報共有することで人材の共有も図られるので、今後も続けていければ良いと思うし、継続していくために必要なことや課題も共有していければ良いと思う。
- ・資料の組織図を見ると、保育園が外れている。小田原の場合は各地域に公私立の保育園があるので、地域で生活している子どもたちのことも考え、保育園もこの輪の中に入れていただければと思う。
- ・(事務局から) 幼保小中一体教育の推進を図るという意味でも、保育園との連携は当然考えている。今回は学校教育の視点で資料を作成したので、資料を分かりやすいように直ささせていただければと思う。現在、幼稚園・保育園・小学校との連携を密にするために、この事業とは別ではあるが、どうしたらうまく連携できるかということの研究会を立ち上げて検討しているので、その部分についても資料の組織図に反映したいと思う。
- ・23年度以降は国の委託もなくなり、全中学校区でこの事業を行うということであり、組織図では地域教育協議会が各中学校区に企画や立案を下ろすということであるが、地域教育協議会での方針や立案などをすぐに作って部会に下ろさないとうまくいかないのではないかと心配である。
- ・(事務局から) 第3回地域ぐるみの教育推進委員会の際に、今日の意見なども踏まえて来年度の方針を正式な形で出したいと思う。学校にも下ろす部分もあるので、連携しながらやって行きたい。ただ、小田原市では今も中学校区で幼保小中の連絡会を持っており、スクールボランティアの推進も各学校で行っているのでは、何かやるとなった場合にはすぐに動ける体制があると思っている。

(3) その他

○次回の日程について

- ・(事務局から) 次回は3月3日(木)に実施することで、了承を得た。その際に、今年度、各小中学校、幼稚園で特色を生かして行った「未来へつながる学校づくり推進事業」での取り組みも紹介をする。

3 閉会